○兄様の書齋

岩代須賀川本町　服部貞子

兄様はおかへりか知らと、のぞいて見たがまだおかへりにならない様子、紫メリンスの座蒲團が冷たさうに机の前に置いてある、こそつとはいつて見る。

まァ此机の塵は・・・・・私がさして上げた水仙の花も大なしだわ。

机の上に積まれてあるのが、銀鈴、文庫、寮歌集、アラ西洋獨り占ひなぞも・・・それから勢揃ひ、金色夜叉が前編と續々編、繪端書ブツクが一帖。北海の荒武者と亂暴な字の手紙が一通、忘れな草の繪端書がこれは西都のせゝらぎよりと。蒔繪の硯箱の上には紫インキが一壺、筆さしにはいづれも坊主になつた筆ばかり二三本。引出しを開けて見ると卷紙やらカートやらが、ゴチャ〳〵と、で何氣なしに片々のを開けて見るとピカリ！アラツと驚いてよくよく見ると丸形の懐中鏡であつた。猶よく見るとマア櫛やらコスメチつクやら・・・オホヽヽヽ今度私をいぢめた時、みんな素ツぱ抜いてやるから、オヤ此指輪は私の指二本もは入りさうだこと！

本箱の上には緋ぢりのお蒲團に臥牛がゆつたりと。中は皆學校の教科書ばかり。正面には水車小屋の油繪が掛つて居る。これは兄様のお友達の筆とか、こちらの柱にはオーバコートが例の通り丈け長々と掛けてある。書棚の前に立つて、寫眞ブツクを引出して見もてゆくと、なくなつた〳〵と思つて居た千枝さんの半身のがチャーンとこゝに、まあいつもつて來たのだらういゝから取つといてやらう、つひでにその傍の兄様の制服制帽のも・・・・・此方のまア　ハイカラなこと！此人はまた、角帽をはじめてかぶりましたつていふやうな・・・・・オホヽヽヽ。

オヤ！靴の音が・・・・・。

【入力者注】

底本に付されている傍点等は省略しました。

底本に行を合せるために、半角スペースを挿入した箇所があります。

底本：「女子文壇」第貳卷第五號
明治三十九(1906)年
テキスト入力：小林　徹
公開：令和六年三月二十六日

リンク：「作品年譜」
水野仙子ホームページ